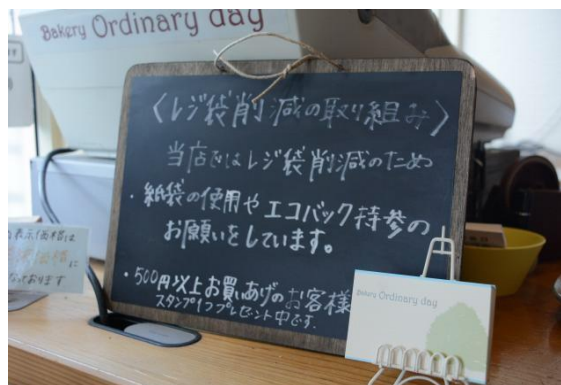


「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」発表後の取組みについて

1. 民間企業の取組みをSNSやホームページで紹介

(1) ベーカリー・オーディナリー・デイ



篠町にあるパン屋「ベーカリー・オーディナリー・デイ」では、エコバックを持ってきたお客さんへポイントサービスを行われているほか、紙袋の再利用を呼び掛ける取組みをされています。

取材に対応いただいた木曾さんは、「レジ袋の削減は自然環境にもやさしいですし、店舗としても袋代などの経費削減につながります」と話します。

(2) かっぱや



篠町にある文房具店「かっぱや」では、プラスチック製レジ袋に替えて紙袋に商品を入れる取組みを始められています。店長さんは「近所の子 どもたちが、紙袋に変わったことに気付き、『なんでかな?』『そうだ、環境にやさしいんだ!』と話題にしてくれていました。少しずつ意識が浸透していけばいいなと思っています」とその反響を話します。

(3) ふくくる



曽我部町にあるパン屋「ふくくる」では、プラスチック製レジ袋を廃止、紙袋に統一するとともに、配達時にも紙製の箱を導入されています。また、お客さんにもマイバックの持参を呼びかけています。

店長の山本さんは、「プラごみの削減は世界的な流れだと感じています。常連のお客さんにも意識が浸透し、ほぼ皆さんマイバックを持参されます」と話します。

(4) 内藤印刷



「内藤印刷」(西町)では、従来、企業などに名刺を納品する際にプラスチック製ケースに入れて納品していたところを、紙製ケースに変更されました。オフィスの中からも脱プラの流れが加速しています。

(5) かめまるマート



JR 亀岡駅構内にある物産展「かめまるマート」とトロッコ亀岡駅観光案内所では、レジ袋が有料化されました。プラごみゼロ宣言の趣旨に賛同して始まったこの取り組みは、すべての袋類の無料配布をやめ、ビニール袋・紙袋ともに有料とするもの。市内外から訪れる利用者に環境先進都市・亀岡をアピールし、積極的にマイバッグの持参を促します。

(6) Peche(ペシエ)



大井町にある焼き立てパンカフェ「Peche(ペシエ)」では、プラスチック製ストローに替えて紙製ストローを提供する取り組みをスタートされています。また、パンを入れる袋もビニールから紙袋に変更されるなど、積極的にプラごみ削減を進めておられます。

取り組みのきっかけをオーナーの大井さんに伺うと、「以前から海のプラスチックごみ問題は気になっていましたが、飢えと脱水で死亡した若いクジラの胃の中から40キロのプラスチックが見つかったことをニュースで知り、『そろそろ』変えようから『今すぐ』変えなければ・・・という気持ちになりました。その翌日にはストローとビニール袋を紙製に変えました」とその思いを話してくださいました。

(7) ほっとはあと



毎月市役所で開催されている、亀岡市内の就労支援事業所による「ほっとはあと」製品の販売会では、ビニール製のレジ袋をやめ、紙袋に替える取り組みが始まりました。それとともに、お客さんには袋がいるかどうか尋ねることで、不要な袋の削減に努められています。

2. 市役所での取組み

(1) エコバックシェアツリー



職員から率先して、レジ袋など身近なプラスチック製品を削減するため、市役所の職員通用口と保健センターに“エコバックシェアツリー”を設置しました。職員が昼休みなど外で買い物をする時に、このツリーからバッグを持っていき、帰庁時に返すというものです。

(2) 市役所売店



地下 1 階の売店ではビニール製のレジ袋を廃止。買い物に訪れる職員や市民にエコバックの持参を促しています。

(3) クリアファイルサーバー



「買わずにクリアなクリアファイル」をテーマに設置された「クリアファイルサーバー」もその取り組みの一つです。各部署において余っているクリアファイルをこのサーバーに持ち寄り、共有することで再利用と購入の抑制を図るものです。

(4) 会 議



市が実施する会議では、ペットボトルなどの提供を控え、マイボトル持参を呼びかける動きが進んでいます。出席者の皆さんにご理解とご協力をいただく中で、プラスチックごみ削減への意識を高め、行動に結びつける取り組みの一つです。